

ンセラー的活動に長けているとは限りませんし、忙しさから求道者との接触が少なくなつて、求道者の個人的事情や本音を深く知ることができず、受洗の機会を逸してしまうこともあります。その点では、求道者を教会へ誘った信徒や伝道心盛んな信徒の方が求道者を導くにはふさわしいこともあります。しかし、その信徒も求道者の信仰的疑問に答えられなかったり、病気や転勤になって求道者と接触ができなくなったり、いつの間にか求道者が教会に出席しなくなるというようなことも起こり得ます。

**このような個人の努力に頼った教会側の受け入れ態勢の不備により、大切な求道者に対する受洗への導きが左右されてはなりません。それがこころの友伝道の第2の特色である、牧師と信徒が互いにパートナーとなってチームを組む理由です。**

求道者を個人で導くのではなく、牧師と奉仕者がチームを組み、定期的にミーティングを開き、求道者の消息を確認しつつ導きます。求道者にふさわしい奉仕者が、こころの友となって喜びや悲しみを共にし、その礼拝出席が継続するよう努め、受洗の機会が訪れるのを祈って待ちます。その間、牧師と奉仕者はお互いの賜物を活かし、牧師は求道者の信仰的疑問等に応え、また、様々な困難に出会って弱

さを覚える担当者を励まします。奉仕者も互いにこれまで蓄えた知恵や経験を教え合います。奉仕者が病気や転勤になれば別の奉仕者が代わりに引き受けます。そして、日々求道者、牧師のため、メンバー相互のために祈り合います。こうしてチームのメンバーが互いにパートナーになって補い合い、祈り合つて、求道者を受洗まで責任をもって導きます。これがこころの友伝道の特色です。このこころの友伝道のメンバーになり、担当の求道者の受洗に立ち会った奉仕者は、皆さん異口同音に、その時の喜びは信仰生活の中でこの上ないものであったと語ります。

このような活動を続けてきた**こころの友伝道は、1951年**以来の長い実践経験と神学的検討を経て「**3つの基本と5つの実際**」を定め、これに基づき「**こころの友伝道の手びき**」を作成して、繰り返し学びながら日々多くの教会で実践されています。これが**第3の特色**です。

今年も全国大会で3つの基本5つの実際を改めて学び、特別講師の現代の不安Ⅱの講義を受けて、人々の求めているところを学んでいきます。このような歩みの先には、執り成しの祈りに基づいて形成される温かい教会、新しい方を喜んで迎える伝道的な教会、そしてみ言葉を熱心に学ぶ教会が姿を現わす、というのが私の確信です。